



その咳、大丈夫？ 大人に増えている百日咳とは？

治るのに百日かかるというほど、ひどい咳が特徴の百日咳。ワクチンを接種しているから大丈夫だと安心していませんか？もともとは子どもに多い病気とされてきましたが、近年、大人になって感染する百日咳が増えていると言われています。2007年に日本の大学で百日咳の集団感染があった事を記憶している人も多いのではないのでしょうか？

百日咳とはどのような症状で、かかった場合どうすれば良いのでしょうか？

そもそも百日咳とはどんな病気なの？

百日咳は百日咳菌という病原菌が原因で、咳やくしゃみによって飛沫感染したり、唾液や鼻水が付着しているものに触れて接触感染することで発症します。百日咳は年齢に関係なく、また季節にも関係なく誰でもかかる可能性のある病気と言われています。成人の場合は悪化しても死にいたることはありませんが、慢性化することがあります。



百日咳は症状から3つの時期に分けて考えられています。

- カタル期：百日咳はだいたい5日から10日の潜伏期間を経て発症します。風邪に似た症状から始まり、1～2週間ぐらい続きます。この時期に抗菌薬を内服すると感染力を抑えるので効果的だと言われています。
- 痙咳(けいがい)期：短くて激しい咳込みを連続的にして、最後に笛の音のような音をさせながら息を吸い込む、百日咳の特徴的な咳が始まります。主に激しい咳の発作が起きますが、咳が出ないこともあります
- 回復期：激しい咳は2～3週間かけて徐々に治まっていきます。ときに完全に治るのに数ヶ月を要することもあります。

咳が出ない場合は原因不明とされることがあります。いつの間にか自然に治ってしまうケースが多いですが、1年以上も喉の痛みや頭のふらつき、微熱、倦怠感などの症状が続くこともあります。

成人の百日咳患者が増えている理由とは？

百日咳のワクチンの効果は3～5年で弱まり、10～12年経つと予防効果が失われると言われています。効果が失われると言うことは、免疫がなくなることです。仮に6カ月から1歳までに予防接種を受けたとします。その子が成長し、年長さんから小学校低学年になるころには、もうワクチンの効果は薄れ、百日咳にかかる危険性があるのです。

百日咳を予防するには？

大人の百日咳の感染を予防するために、ワクチンによる抗体価が低下する時期に再度追加ワクチンを打つことが感染予防に役立つと考えられます。

※百日咳は一度かかったからと言って抗体が出来る病気ではありません。

_成人の追加接種としてはTdap（ジフテリア・破傷風・百日咳の混合ワクチン）の接種が推奨されています。

また、日常的な予防法として

- ・外出時にはマスクを着用し、人込みはなるべく避けましょう。
- ・帰宅時にはうがい・手洗いを励行しましょう。
- ・咳が続く場合は安静にして、早めに医療機関を受診しましょう。

百日咳と診断されたら？

百日咳に罹患した場合は学校保健法により「出席停止」となります。診断された場合は速やかに教務課へ連絡し、公欠の手続きを取りましょう。

また、登校時期に関しては主治医の指示に従ってください。

大人が百日咳に感染しても、風邪の症状以外にこれといった特別な症状が出ないことが多く、とても気づきにくいということを知っておきましょう。

子供にとっては大きなダメージになってしまいますから、適切な対策を取っておく方が安心です。特に乳児は、月齢が低ければ低いほど重症化しやすく、合併症が起きたり、命を落としかねない危険な病気です。

子供を守るため、そして、大人が無用な二次感染を広げないためにも百日咳に関する正しい知識を身につけて、しっかりと対処することが必要です。

